１．活動の目的

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団と皇學館大学学部生が連携し、子育て支援や啓発活動に関わりを持つイベントの企画・運営を行います。

　目的は２つあります。

①イベントに参加した全ての子供たちが笑顔になり、ひいては親子の関係が親密になること。

②企画・運営や協力依頼等の活動を通して、問題解決能力やコミュニケーション能力を養い、人とのつながり・ふれあいの大切さを実感する。

II. 活動を始めるきっかけ

「子供が好き！！」
「ボランティア活動に興味がある！！」
「イベントの企画・運営に携わってみたい！！」
「企業や団体に協力依頼をしに行ってみたい！！」
「大学生活で思い出に残る何かをしたい！！」等
参加を決意したメンバーは、それぞれ強い想いを持っています。その想いを形にできる「ユースプロジェクト」との出会いが、参加のきっかけとなっています。

←写真は「ユースプロジェクト」説明会の様子です。この説明会で参加への想いが確固たるものになったと思われます。

III. メンバーの構成

３年生…５名＋１名
１年生…２名
その他…２名（イベント時の参加）
連携協力…三重県立みえこどもの城（公益財団法人三重こどもわかもの育成財団運営）

写真は会議の様子です。→
入念に話し合いを行ない、イベントの企画を進めていきます。

Ⅳ. これまでの取り組み

記念すべき「ユースプロジェクト」第１弾の取り組みとして、県の「子ども虐待防止啓発月間」（１１月）に合わせたイベント「オレンジみこしでわっしょい！」を企画しました。虐待防止を訴える「オレンジリボン運動」のオレンジ色にこだわりながら、「子どもが参加しやすい」ことを軸にし、御輿を作成することで、お祭り風に仕上げました。御輿の他にも、ご協力頂いた企業・団体様による炊き出しや餅つき、よさこいや太鼓演奏などが行なわれました。当初は、規模の小さいイベントになると想定していました。そこで、「どうしたらイベントを盛り上げることが出来るのか」を考え、企業・団体様に応援依頼をしたり、商業施設にてＰＲ活動を行なったりした結果、参加者は予想を超えるほど多く、加えて鈴木英敬知事にも来ていただける大きなイベントになりました！子どもたちは「わっしょい！！」と元気な掛け声で御輿を担ぎ、保護者は子どもを写真に収めることができ、親子の絆が深まったように思います。

↓御輿は３基作成し、子供たちは元気よく担いでくれました。「大変だったけど、楽しかった。」「みこしを担げてよかった。」といった意見もいただきました！

↓鈴木英敬知事が応援に！虐待防止への強い想いを聞くことが出来ました。

Ｖ．地域との連携

「オレンジみこしでわっしょい！」が大盛り上がりで終わることが出来たのは、、「子供たちの為なら！！」「学生が企画したイベントの為に！！」と多くの企業・団体様に、ご協力していただき、子供たちに負けないくらいイベントを楽しんでいただいたからだと思います。私たちだけでは収めることの出来なかった成功を支援して下さった方々に心から感謝を込め、以下に協力企業・団体様を紹介させていただきます。

・岡三証券株式会社
・東京海上日動火災保険株式会社
・橋本電子工業株式会社
・株式会社ジェントリー
・株式会社ぎゅーとら
・シックスアグリ株式会社
・有限会社野瀬商店
・株式会社おやつカンパニー
・松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社
・旭電気株式会社
・三重県助産師会
・松阪子どもＮＰＯセンター
・松尾まちづくり協議会
・地元有志のみなさん
・松阪市立第二小学校 第二っ子 結太鼓
・松阪笑舞連
・中部大学すくすく隊
・皇学館大学　　（順不同・敬称略）

さらに！！「ユースプロジェクト」をきっかけに、公益財団法人三重こどもわかもの育成財団と皇学館大学が人材育成を目的とする連携協定を１１月１日に締結し、その席にメンバー代表も参加しました。

Ⅵ. 現在の主な取り組み内容

３月に行なわれる、「昔の遊び」をテーマにしたイベントの企画・準備を進めています。地域の方々たちと一緒に、体を動かす遊びや、頭を使う遊びなど、子供たちとの触れ合いを大事にできるようなイベントを考えています。

Ⅶ. 今後の方向性・将来の夢

今はまだ「ユースプロジェクト」の歴史が浅く、手さぐり状態で進めています。少しでも活動人数が増えてくれれば、様々な案や意見が出てきて、活動の幅が広がると思います。そして「ユースプロジェクト＝皇学館大学」と認知されるほどになれば私たちの活動が実りあるものになると思っています。子どもたちの笑顔のために「今できること」を私たちなりに考え、活動を続けていきたいです。

・学内広報誌にユースプロジェクトの活動報告の掲載
・他大学のボランティア活動や地域団体と連携したイベントの実施　等
これらを今後の目標としていきたいです。

「皇学館大学 ユースプロジェクト」　一同